

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	京都市立二の丸北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	22	17	20	30	30	19	1	139	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に考え，よりよい問題解決を求める子 ～一人一人の学力の向上を目指して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年算数科</p> <p>教育目標「自ら学び，ともに高まる子」を達成するために，問題解決学習によって基礎的・基本的な内容を確実に定着させ，思考力，表現力，問題解決能力などの確かな学力の向上を図りたいと考えて，算数科を選択して研究を進めることにした。</p> <p>本校は，以前に理科の研究を進めていたので，問題解決学習についての土台があり，それも生かして算数科の研究に取り組んでいる。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

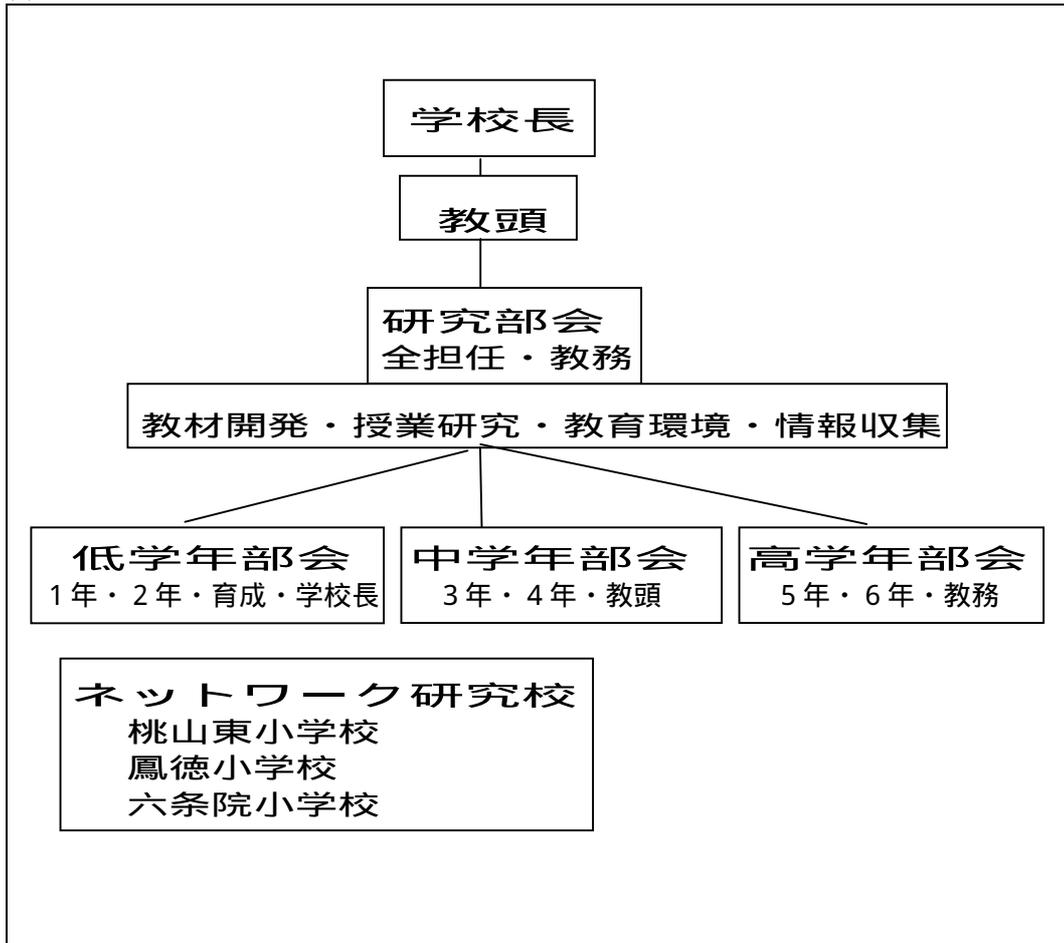
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ「主体的に考え、よりよい問題解決を求める子」 ～一人一人の学力の向上を目指して～</p> <p>研究の見通し 前年度の算数科の取組を土台として、教材開発や授業改善をさらに進めながら、問題解決過程の充実と個に応じた指導の工夫を目指して、研究を進める。 また、他校とも研究交流しながら、学力向上のための取組を進めていく。</p> <p>研究の内容・方法 研究仮説 「個に応じた指導の中で、補充的な学習や発展的な学習を工夫することによって、児童が自分の考えを明確にすることができるならば、問題解決学習の過程が充実し、すべての児童の問題解決能力を高めることができる。」</p> <p>一人一人の学習が成立し、学力向上を図るための具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学級授業公開による授業の改善 ・効果的な教材開発 ・問題解決過程の実践研究 <p>「つかむ」段階 「ためす」段階 算数的活動 自力解決 「深める」段階 集団解決 「生かす」段階 コース別学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の分析的カテゴリーの設定 ・個に応じた指導の工夫 ・評価規準の明確化 ・個に応じた指導の力点の明確化 ・算数教育を支えるための取組 <p>音楽集会 算数教室 教科担任制 心の教育とのかかわり 研究発表会 10月9日(木)本校体育館にて、公開授業を実施する。 授業公開 2年「ちがいをみて」 講演会 「一人一人をのばす算数科授業」 講師 神戸大学発達科学部 教授 船越俊介先生 2月6日(金)に研究発表会を実施する。 授業公開 1年「100までのかず」 3年「はこづくり」 5年「円」 講演会 「これからの算数教育を求めて」 ～学力・基礎基本・個に応じた指導・評価・発展と補充～ 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程科 教科調査官 吉川 成夫先生</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ「主体的に考え、よりよい問題解決を求める子」 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究をさらに充実・発展させるように実践研究を進める。 ・研究発表会に向けて、全教職員で協力して取組を進める。 ・向島地域5小学校・2中学校が連携して、小中一環教育の研究に算数科を中心として取り組む。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の工夫や問題解決過程の研究を深めるために、授業研究を通して、授業改善を図りつつ、一人一人の学力向上を目指す。
--------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度尾の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

本校の問題解決過程が確立できたこと。
つかむ段階（問題を理解する・課題を見出す・解決への見通しをもつ）
ためす段階（計画を実行する）
深める段階（解決を検討する）
生かす段階（解決を味わう・解決を振り返る）
効果的な教材が開発できたこと。
評価規準を設定して形成的評価の研究が進んだこと。
概ね満足できる児童の状況を基にして、一人一人の児童が基礎・基本を確実に身に付けているかどうかを形成的に評価していく。
個に応じた指導の工夫の方法が確立できたこと。
算数科教科目標に即して、
「自ら活動し考える授業が必要であり、既習事項や既習経験を活用し、新たな課題について考えることによって学習を創造し、多面的にもものを見る能力や論理的に考えるなどの算数的な能力を高めるようにする。」
分析的授業カテゴリーを設定して研究が進められた。
教師が常に授業の中での児童への働きかけを分析的にとらえて、一つ一つの働きかけの目的や機能を意識して、授業を進められるように、カテゴリーの形式で指導案に明記している。

例 思考要求のための課題提示 1 A
補充的な指導のための助言 3 E
視点の転換のための方向づけ 2 D

2. 今後の課題

集団解決において、児童が自分の着想や考えを生かして、豊かな表現ができるように研究を進めること。
自己評価や相互評価を生かして形成的評価を効果的に進めること。
補助簿の効果的な活用についての研究を進めること。
話すこと聞くことによるコミュニケーション能力を培うことを通して、創造的な学習が成立するように研究を進めていくこと。

学力等把握のための学校としての取組

- ・単元に入る際に、アンケート調査などをして、児童の実態把握をしている
- ・授業における児童の発言・ノート・活動の様子を把握して、指導に生かしている。
- ・評価テストなどによって、単元ごとに児童の実態を把握している。
- ・京都市の学力調査を実施して、その結果を分析している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 2月6日（金）に桃山東小学校と合同研究発表会を実施した。
午前中は、京都市呉竹文化センターにて、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 吉川 成夫先生と前教科調査官 筑波大学助教授 清水 静海先生を招いて座談会を開催し、800名の参加があり、午後は、本校で、授業研究会（音楽集会・公開授業・研究会）を開催し、500名の参加があった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		